

東奥日報

2025年(令和7年)4月23日(水曜日) (15)

ホール明るく使いやすく

八工大
改修

内装や備品がリニューアルされた八戸工業大学の多目的ホール

多目的ホールの広さは約306平方メートル。リニューアルは2022年の同大50周年を記念した寄付金や7代学長・故高橋燦吉氏の遺族からの寄付金などを活用し、約1500万円かけて実施した。整備のコンセプトは「学生が集うプロムナード（散歩道）」で、床のカーペットに道がデザインされた。1人用の学習机、移動可能な長テーブルとイスを新たに導入し、講義や講演会の際は最大110席を設置できる。

八戸工業大学は、講義や講演会の会場、フリースペースとして活用してきた同大1号館2階の多目的ホールを、学生が自習や憩いの場としても利用しやすいようリニューアルした。机やイス、音響設備などを一新し、内装は以前より明るい色調に。1日のオープン後、「きれいになって使いやすくなった」と学生から好評という。

八戸

船崎健一学長は「学生が勉強したり友達と交流したりできる『ラーニング・コモンズ』のような場所を整備したかった。これから学内の整備を進め、にぎわいをつくりたい」と話した。このほか同大学生ホール内の売店に、コンビニエンスストアのファミリーマートが北東北3県の大学で初めて出店。2日から営業している。（千葉真由美）

※「この画像は該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」